

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌

Take free!

なひ

8月号
vol. 114

巻頭特集

なひの
隣保食館

「青空の下、夏色の花」
北津守4丁目付近にて撮影

本特集の主旨にならえば、まずは現在、西成市民館を運営している（社福）石井記念愛染園（以下、「愛染園」と表記）に触れないわけにはいかない。明治期の慈善事業家、石井十次氏の名を冠する当法人は、石井氏が孤児救済事業のために1907年岡山の地に設立した孤児教育会（後に「岡山孤児院」と改称）に由来する。当時の社会問題を解決するために日本各地を奔走していた石井氏は、自らが構想する社会福祉事業体の拠点の一つを大阪に求め、1909年、大阪市南区（現浪速区）下寺町の愛染橋西詰に岡山孤児院付属の愛染橋保育所ならびに夜学校（大阪分院）を

おとなりさんは偉大な先輩だった

今回はホントのおとなりさん、隣保事業の老舗「西成市民館」を訪ねた。大阪市から館の管理業務を受託している社会福祉法人石井記念愛染園は、明治の慈善事業家・石井十次氏による岡山孤児院の設立に由来する。2009年に一〇〇周年を迎えた隣保事業の大先輩に教えを乞うた。



おとなりの隣保館

おとなりさん ⑤ 西成市民館



昨年12月にオープンした「スマイル ゆくとあい」は西成発の民設民営隣保館。それはセツルメントに由来し、貧困・孤立・差別、排除など複合的・重層的な課題を抱えた住民に寄り添いながら、これらの困難に取り組む隣保事業を行ってきました。このような拠点施設が減少しつつある昨今、『なび』は大阪府内をはじめ全国の隣保館ルネッサンス活動に励む「おとなりさん」を訪ね、ええと「取りをしていきます」。

おとなりさんプロジェクト
飯島・西田・若松・佐々木



（上段左）わかさ保育園側の玄関からみた西成市民館（その下）徳風小学校の廃校を記念して建立された「有終の美」記念碑（上段右）西成市民館の外観（中段）2階の図書室（下段）西成市民館の玄関

開所した。

大阪分院は石井氏の没後、支援者の大原孫三郎氏（倉敷紡績社長で、俵タラレの創業者）が引き継ぎ、1916年11月、石井記念愛染園として独立し翌年財団法人化した。財団法人の認可を得た同年3月22日は当法人の創立日に定められている。

そして第2次世界大戦の困難をくぐり抜けてきた愛染園は、1952年5月に社会福祉法人の認可を受ける。現在は浪速区・西成区を中心に隣保事業・病院部門・介護部門の3部門の事業に取り組み、約900名の職員を擁する社会福祉法人

として地域福祉に貢献しつづけている。民営の隣保事業に携わってきた一〇〇年の歴史は重い。

時代と共に変わる西成市民館の姿

西成市民館という建物もその歴史の厚みを漂わせている。というのも同館は、北市民館（初代館長 志賀志那人）をはじめとする世界初の公立セツルメント「市民館」の系譜に連なる建物なのである。1955年4月、大阪市立今宮市民館の改築のために元徳風小学校の講堂が移転されてきたのを機に、今宮市民館は「西成市民館」に改称し、現在の所在地で新たなスタートを切った（『石井十次が残したものの』443頁）。唯一現存するこの市民館は、社会福祉に力を注ぐ大阪市という在りし日の姿を偲ばせる一面を備えている。

同館は、西成はいりん地区の一角、いわゆる四角公園の西側に所在する。日雇労働者の街という独特の地域性に合わせて、国道26号の向こうのお隣さんは、その役割・機能を変えてきた。60〜80年代には、婦人会による茶道・華道、子ども会活



河崎洋充西成市民館館長

動など地域住民と共に諸活動が行われていた。ところが70年代に入る頃になると、寄せ場機能を特化させていく地域の変化にに応じて、これらの市民館の自主事業は行われなくなり、貸館利用が中心になっていった。そして愛染園が管理業務を行う直前には、普段から玄関のシャッターが閉まったままになり、館の公共的な利用がいくぶん制限されるようになっていった。

愛染園による西成市民館の管理業務は2007年1月から始まり、以後3期連続で業務を継続している(土地、建物は市の所有)。他方で、愛染園は1972年から同建物内でわかくさ保育園を運営しており、そのことが少なからず、指定管理制度へのエントリーの動機になったのではないか、と思われる。

愛染園が西成市民館の指定管理を受託し、河崎洋充さんが館長に就任された当初、地域福祉のためにはあるはずの館が、誰も立ち寄らない場所になってしまっていた。それをふたたび地域に開いていこう、という思いがあった河崎館長は、まず毎朝、表玄関のシャッターを上げて「トイレを自由に使えます」と館を地域に開放す

ることにした。想定されたとおり当初は周辺住民からのクレームが相次いだが、それも一週間もすると落ち着きをみせるようになった。

長らく市民館を運営してきた河崎館長は、街の様子がずいぶん変わってきた、という。とくに最近目につくのは、自転車で街を往来する40〜50代女性の姿である。彼女らはこの地域に住む高齢者の介護ヘルパーなのだそう。2000年代は、ホームレスとなつて街に溢れた生活困窮者をさまざまな組織・団体が支援し、「量上げて」生活の安定を目指してきた。一定の安定を得た彼らの多くは、現在「単身高齢者」として介護が必要な日々を送っている。このような地域の変化に応じて、西成市民館は新たな役割を担い始めていく。

居場所と仲間を生み出すカラオケサークル

河崎館長は、つづいて市民館が地域の人びとの居場所になるよう定期的なイベントを企画し、「昼間に酒を飲まずにカラオケができる」をコンセプトにカラオケ

の2階で開催されるカラオケ会では、開始時間の直前には早くも参加者が集まって来る。参加費は無料、ドリンクは一杯50円で販売している。参加者と息の合ったボランティアの書川さんが務める司会



(左) 文化祭にやって来たジャガピーくん (右上) だかしやの模擬店 (右下) 地元高校の吹奏楽部による演奏

のおかげで、進行はスムーズだ。先着順でリクエスト曲を用紙に書いて出番を待つ。取材に伺った日の参加者は12名。2時間で1人2曲程度出番が回ってくるそうだ。

新参も古参も関係なく合いの手を入れながら仲良く睦んでいる。トップバッターは「マイウェイ」を唄っていたが、ほとんどは演歌がお好みの方である。興に乗ると、自前の振り付けで踊る人も出てくる。この日、女性の参加者は1人だった。出番が回ってきた男たちは彼女に親しく声をかけながら唄い、その様子を参加者みんなで楽しんでいた。

こんなふうには和気あいあいとしたサークルの雰囲気、居場所づくりと仲間づくりの拠点という西成市民館の機能を復活させていったのだらう。

そして、生きがいづくりへ

地域住民の居場所となり、そこで仲間が出会い、つづる空間として西成市民館が定着してくると、利用者の各々が個性的な特技を持っていることに気づいた河崎館長は、「特技を発表できる場をつ



カラオケサークルの様子

サークルをつくった。歌が唄える店はこの街にもたくさんがあるが、そうしたお店にはたいていお酒が付きもの。唄うことに専念したい人にはやや敷居が高い。市民館は「唄うことそのものを楽しみたい」というニーズを捉え、カラオケをつうじて人びとが寄り集まってくる場を提供することにした。歌は人を和ませる。カラオケ好きの人びとが集まってくれば、自然と会話が生まれ、仲間ができる。私たちはその様子を取材する機会に恵まれた。毎週火・水・木曜日の午後2時から同館

くつて、利用者の生きがいを培いたい」と、館の文化祭として「市民館祭り」を企画・開催した。この祭りは地域の祭りに発展し、5年前に「秋之茶屋文化祭」に改称された。開催は2日間にわたり、一日目は西成市民館内での展示やイベントが行われ、二日目は向かいの「四角公園」で模擬店が出店される。最近では地元高校の吹奏楽部が演奏してくれたり、西成区のゆるキャラ「スーパードンボコジャガピー」にしろくん」が出張ってきてくれたりしている。

西成市民館の事業や実践をすすめる方針を、河崎館長は「居場所づくり、仲間づくり、生きがいづくり」という三つのステップとして表現された。それは、にじり隣保館の事業コンセプト——居場所づくり、つながりづくり、出番づくり(『なび』106号参照)と多くの部分で重なっている。ただし、この方針を日々の実践や事業の組み立て・実施に血肉化させていくこと、これこそがにじり隣保館の大きな課題である。愛染園が長年に亘って蓄積されてきた知識やノウハウ、そして受け継がれてきた精神に学びたい。

文責…若松 司

みんながみんな

ver.1.1

ボランティアしてるで、きずなクラブ！

教育に取り組んでいるのは学校だけじゃない！小中高のほかにも地域の教育事業で活躍する団体・施設・仕組みを紹介していきます。

14時間目：鶴見橋中学校 きずなクラブ



昨年の子ども秋祭り

きずなクラブとは

鶴見橋中学校には、ボランティア活動を積極的にを行い、地域貢献を目指す「きずなクラブ」という部活動があります。地域のつながりを大切に思い、ボランティアを通して社会に貢献できるよう、やる気に満ちた中学生が所属しています。生徒は自分たちが住む西成区について考え、日々の活動を通してたくさんの人とつながり、きずなを深めることを目標に頑張っています。今回はきずなクラブの顧問をされている小林弘幸先生からお話をうかがいました。

活動のようす

現在は3年生6名、2年生5名、1年生1名の計12名が所属しています。ほとんどの生徒が他のクラブとかけもちをししながら、精力的に活動に参加しました。おとなしく優しい生徒がたくさんおり、みんな努力家です。平日は他の部活動に取り組み、どの生徒も上手く両立させています。

■特別養護老人ホームでの喫茶店

毎月第2土曜日にはヒューマンライツ福祉協会が運営する「まちかどホームすずらん」を訪ね、小さな喫茶店を開いています。飲み物とお菓子を用意し、利用者の方がリラックスできる環境を作るため、どのような運営していくか生徒が主体となって考えています。「いつもありがとう」「また来てや」とたくさんの方の利用者の方に声をかけてもらい、生徒のやる気につながっています。高齢者の方と接する機会のない生徒も多く、「どの人も優しくっていいお話ししてくれ！」と喜んで参加する生徒もいます。

■にしなり☆子ども食堂

毎週土曜日は「ゆくとあい」で行われる、子ども食堂の夕食作りに参加しています。献立も毎回変わるの、「今日は何作るのかな」といつも楽しみにしながら、地域の方と一緒に調理を進めます。小学生を中心に毎週40〜



「すずらん」で喫茶店の準備

50名ほどの参加者があり、料理を囲みながら学校のことや趣味の話などを、学年問わずワイワイとにぎやかにしゃべっています。こ



にしなり☆子ども食堂で夕食作り

も食堂を通して、大人の方とお話しする機会がたくさんでき、年上の人としやべることには緊張していた生徒も、今は自分から話しかけられるようになりました。

■子ども秋祭り

市民交流センターで度々ボランティアをさせてもらう中、中学生が主体となつて「子ども秋祭り」を運営する機会をもらいました。地域の小学生や高校生とも連携して、企画から準備・運営・反省まで、それぞれがリーダーシップを発揮しました。配布するポスターやチケットは自分たちの手書きで作成し、設置は大人の力を借りたものの屋台の準備や細かい運営を決めるなど、見通しをもって取り組みました。初めての試みであつたため、どれだけの人が集まるか全く分からない状態でしたが、結果400名以上の方が来場し、生徒も一日中運営のため

に奔走しました。

■その他のいろいろ

西成警察と連携した「ひつたり防止力バー」の配布、ネパール大地震の募金活動、あいりん地区での「子ども夜回り」など、地域の色々な行事やボランティア活動に参加しています。

部員について

日ごろはあまり前に出ることのないおとなしいメンバーが、みんなの前で認めてもらい輝くことのできる場面をきずなクラブではより多く作ってあげたいと考えています。生徒にとって一番うれしいことは、身近な人に「頑張ってるね」と温かい言葉をかけてもらったり、「いつもありがとう」と感謝してもらったりすることです。鶴見橋中学校では「いのち」の教育を掲げており、活動に参加している生徒たちも、人のために行動することは素晴らしいのだという気持ちも強まってきていて、取り組みの中で少しずつ自尊感情や自己肯定感も高まってきているように感じます。

レポート…沖田一志
寺嶋公典

【寺嶋公典】「にしなり☆子ども食堂」がテレビで放送された。極力映らないように隠れていたが、学校の先生の集会のシーンで、恐ろしい顔をして映っていた。カメラがある時は笑顔でいようっと！

【沖田一志】表計算(Excel)を使って、毎回決まった作業を何度も繰り返してませんか？データベース(Access)なら複雑な集計、大量なデータの検索、更新がコマンドひとつで処理出来ます。



Web制作講座入門

を目指した、2ヶ月間の受講料無料（要件あり）の就職支援付訓練です。2016年度は「建築CADオペレーター科」「貿易実務科」「プログラマ養成科」の開講を予定しています。

③ **自治体との連携による就労支援**

開設当初から、中高年齢者や若者たちの働きづらさに焦点を当てた支援や講座にに取り組んでいます。2016年度は生活

困窮者を対象とした大阪府広域就労支援事業を受託し、自治体と連携しながら企業の開発や支援付き雇用の実現に向けた活動を進めています。また、地方創生の取り組みとして、青森県弘前市と泉佐野市の広域連携の推進に「就労支援（若者）」と「産業支援（りんご）」をキーワードに関わっています。

④ **高校現場での就職支援**

西成高校や桃谷高校（通信制）にスタッフを派遣し、高校現場での就職支援を実践しています。また、高校中退や早期離職した卒業生のサードプレイスとしてフリースペース「マナビバ！」を共同で運営しています。

目指すは日本版 コミュニティ・カレッジ

これらの延長線には、アメリカのコミュニティ・カレッジ（以下CC）があります。自由競争と自己責任のイメージが強いアメリカですが、女性や移民など周边的な

立場の人々によるオルタナティブな活動から制度化されたものが数多くあります。2014年の労働力革新機会法では、「就労に不利な人の支援に重点的な予算配分をすること」を定め、州・郡・市が設置する労働力投資委員会（雇用主が過半数）が就労支援と職業訓練事業を運営します。その中心的な役割を果たしているのがCCです。高校卒業生や在職者、失業者、移民などを生徒として迎え、地域企業と共同で開発したカリキュラムで学びます。卒業後は取得した準学士の資格を活かし、就職や4年制大学など次のステップにむけて、チャレンジできる環境があります。

私たちは経済環境の変化が激しく、日本型雇用制度が揺らいでいる今こそ、

日本版CCづくりに挑戦しています。

文責…高見 一夫

A'ワーク創造館

大阪市浪速区木津川2-3-8
電話：06-6562-0410 mail: office@adash.or.jp
URL: www.adash.or.jp

『なび』をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

LLP大阪職業教育協働機構

VOL.28

A'ワーク創造館

エーダッシュ



“日本版コミュニティ・カレッジ”を目指すA'ワーク創造館。財政再建という金科玉条のもとですすんだ行政サービスのしっぽ切りに合いながらも、行政依存でも民間任せでもない、新たな官民連携の可能性を追求する実践を高見館長にご紹介いただきました。



A'ワーク創造館は 「官民連携の社会的企業」

A'ワーク創造館は、中小企業で働く人や働きたい人たちが仕事について学ぶ場として、国が全国82ヶ所に設立した地域職業訓練センターの1つです。91年に開設され、「芦原橋（Ashiharabashi）」から「ダッシュ」の意味を込め、A'ワーク創造館と名づけられました。

開設当初は、国設置で府・市の共同運営（財団法人）の「公設・公営」でしたが、



（上）基礎から学ぶ労働・社会保険実務講座（左下）アナウンサーに学ぶ「伝える」ための話すコツ（右下）ICDSキャリアコンサルタント養成講座

2008年度に府・市の補助金の廃止と財団法人の解散が決定しました。そこで大阪府は、次の運営団体を「委託費・補助金0円・公設・民営型」の公募を実施し、私たちの運営がスタートしました。一言で、A'ワーク創造館を表すとすれば「行政が担っていた公的事業を官民連携で発展させる社会的企業」といえます。

A'ワーク創造館の4つの特徴 「職業教育と就労支援のコラボ」

① 働きながら実践的な職業スキルを学べる

平日夜間や土曜日の講座で、短期間に技能習得ができるよう工夫しています。年間100種類200コースを用意し、一から学べるものからスキルアップまで多岐にわたります。ぜひ一度HPをご覧ください。あなたの「知りたい」「学びたい」講座を見つけてください。

② 公共職業訓練の豊富な経験

公共職業訓練は離職者の早期の再就職



「谷口円」仕事で青森県へ。自由時間に古道具屋に行く。京都や大阪の半額以下ではないかというほどのお値段で、驚き。小さな虫眼鏡と、よくわからない真鍮製の何かを買ってしまいました。



「田岡秀朋」気づけば8月11日が「山の日」に。なぜ盆前の12日でないのかな？とウィキペディアへ。御巣鷹山事故への配慮だった。黙祷



「飯島照喜」リバーサイドのピアガーデン、久しぶりに行きました。若いカップル、仕事帰りのサラリーマン、いいですね「乾杯」。私ひとりが焼酎の水割り。なぜか年齢を感じました。

終わってみれば、「争点が定まらない」参院選挙だった。日本の政治の中期的な争点は、平和（改憲）、環境（原発）、社会保障（格差）で、そのうち「格差」は最もリアルで、なかでも「生活困窮者支援」は、受益と負担という「二項対立」な福祉の発想を転換させてくれると思ってきたが、論戦にはならなかった。

生活困窮者自立支援法は、貧困だけでなく孤立や排除にも着目し、「誰もが生活困窮者になるかもしれないリスク社会」と現代社会を分析した。そこから、身近な基礎自治体に期待（分権）し、地域福祉と中間的就労を育むこと（一億総活躍よりソーシャル・インクルージョンと菊池桃子さんが指摘した

あの議論）で、持続可能な福祉の基礎構造を構築するという、キラリと光る社会改革の先駆だ。この法の伏線にはホームレス支援法が、もつと前には地域就労支援事業や「行政の福祉化」等の大阪改革があり、同和行政改革もその渦中にある。これらの政策をリードしてきた政党は旧民主党であり公明党だった。橋下さん（維新）の「西成特区構想」もそこにベースがあった。自民党もこれらの法実現をサポートした。つまり、政党を超えるような合意が醸成されてきた。しかし、参院選を前に、維新の「教育無償化」にも安倍内閣の「一億総活躍」にも、「競争主義や成長主義」

地域から民主主義をやり直そう

い湯かげん



（株）ナイス代表取締役
富田 一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これから「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

マ」を惜しまない社会の合意を育むのが教育無償化、というような市民参加のプロセスこそ政治だと思ふ。つまり、民主主義ということだ。

震災復興支援や沖縄の基地への問い続けも、生活困窮者支援も、出口の見えない迷路のようでも、民主主義というプロセスはくつきりに見える。いま、その民主主義が、政治の舞台で見えにくくなっている。誰かが、政治参加とは、「初めて手作りの弁当を届けて喜ばれた時のような感覚」と表現していたが、言い得て妙だ。そんな気持ちで、地方政治、地域活動から民主主義というものを立て直せないものかと思つた。

〔若松司〕近頃、西成製靴塾の講師に作ってもらった革靴を履いている。意外に軽く、足にフィットして心地よい。風合いも既製品とちがう面白さがある。今年も作ってもらおうかな。



〔西田吉志〕夏本番！ということで、今日は僕が教えてもらった中で一番好きな夜景スポットを紹介します。大阪府枚方市にある空見の丘公園です。また時間があれば行きたいなあ～と思います！

hidarimaki



震災、被曝、米軍基地、待機児童、LGBT、育児休業、保育介護士待遇改善など、想像力が必要な問題ばかり。政治と資本は想像力を阻むばかり。

薬降り甲狀腺なしとする期間医
ウチナーも陸奥も根続き木下閣
風死してウチナー犯す星の旗

紫陽花に家歴託して屋を壊す
この住まい代々の巣箱かつばくらめ
蛍火が遙かな灯火を見あやまる



今月の花:ペンタス

花言葉「希望がかなう」「願い事」

ギリシア語で数字の「5」を意味する「ペンテ」を語源として花びらの数にちなみます。



またつらい事が起きました。10年以上一緒に働いていた仲間がどこかへ行ってしまった。10年位前に、くも膜下出血で緊急手術をして後遺症もなく、ドヤ生活から脱出して、市営住宅で元気にがんばっていたのですが、突然いなくなりました。家賃も滞納していて、パチンコが好きだったのでそれが原因かなと寂しく思います。店長になってから裏切られた事も多いけど…。心配しています。どこにいったん？（なんびとみ）

たぐの 3くふうたま



映画「さとにきたらええやん」を拝見。登場人物に、誰かを可哀想と考える人はいない。ただ相手と自分に真直ぐ向かい、悩み行動する人しかいない。強く逞しい人達物語。（安田拓也）

長い商店街

太陽に照らされ色鮮やかな、駐輪場の熱々サドルの群れを横目に路地を進み、玄關扉を開けると、サアとそよ風が通り過ぎる。

僕の住むアパートの近所には、全国でも屈指の長さを誇る商店街がある。今時珍しく、多くの人で賑わう。

八百屋や魚屋、洋服店は勿論、キムチ専門店や骨董品屋さんまで何でも揃う。特にこの町ならではのものに、昔ながらの銭湯や靴屋に、そこかしこで出会う。皆のこだわりが見える喫茶店や大衆食堂も、商店街を中心に数多く残る。

なんと言っても、どこも素朴な雰囲気、店主の立ち居振る舞いが、お店の趣を深くさせる。そんなお店の多くは、少し腰の曲がった、でも元気な店主が軽やかに、そして跡取りと思いき男女が汗を流し、懸命に働く。

これからも末長くこのまちを見守って欲しい。そう思えるお店が沢山あるまち。



にきい 飯ユラン メシ

5軒目 『食事処 ひかみ』



ミシュランならぬ“飯ユラン”。匿名でなく飯島(だから飯(メシ)ユラン)が「店主がおもしろい」、「店の客が楽しい」、「料理が、味がおいしい」の3つの「い」を基準に、西成区内の飲食店などを紹介します。

地下鉄花園駅から国道26号線沿いにあるりそな銀行の南手前の路地に西に50mほど歩くと『食事処 ひかみ』がある。「ひかみ」という屋号から店構えも和風っぽいものと勝手に想像していたが、意外にもカウンター(12席)のみの店内、カレーやイタ飯の店っぽい、モダンな空間である。娘さんの手作りのメニュー(イラスト入り)には魚料理の定食が並んでいる。

そう、『ひかみ』の特徴は何といっても新鮮な魚介類。「定休日には和歌山の友が島に釣りに行き、釣った魚が定食のメニューと、鮮度抜群、旬の魚がお客様の胃袋に」(店長の森島啓之さん)というわけである。釣りの成果がなかったときは「田尻港や泉佐野漁港で仕入れる」。どこまでも“魚”と“鮮度”にこだわる。米もうまい、兵庫県氷上郡のこしひかり(屋号の「ひかみ」は、奥さんの実家のある氷上郡からきている)。鮮度の良い魚とうまい米、これは定食屋に最も求められるものだ。しらす丼にざるそ

ば付きの定食と大阪の夏には欠かせない鰻を注文。丼ぶり一面にしらす、ご飯が見えない、しらすにたれをかけた極めてシンプルな料理。海の香り、しらすの甘さが口の中に広がる。湯引きした鰻はみそだれで賞味する、「うまい!」。こんな定食類がすべて700円。さらに「この10年間の価格は同じ」。ついついビールを頼んでしまった。

もともとは「ひかみ」は、森島さんのお母さんが昭和56年、現在のところに開店した居酒屋が始まり、2000年に森島さんがバトンタッチ、定食屋として今日に至って35年の歴史を誇る。魚がうまい、値段が安い、メニューが豊富、そんないつでも気軽にに行けるまちの定食屋さんである。

食事処 ひかみ

場所: 西成区鶴見橋1-5-14

電話: 06-6632-1493

営業時間: 11:00~15:00、17:00~20:00
(日・祝日休)



あとがき

先日梅田で最終電車を逃し、たまに夜の街をのつもりが、阿倍野の我家まで歩いてしまいました、3時間ノンストップで。1時間に4kmの計算だと12kmの踏破でした。このエクササイズの間、バッグの中の携帯が、勝手無差別に誤動作発信し、深夜にも関わらず複数の友の熟睡を邪魔したようなのです。翌日「2度着信した。何かあったのか」となどという連絡を受け、まったく覚えのない携帯の怪におびえたのでした。(佐々木)